付　　録

平成26年7月

阪神高速道路株式会社

目　次

■付録1. グループワークによる「安全運転研修」 …… 付1
1. グループワークによる「安全運転研修」のすすめ
（1）グループワークによる「安全運転研修」とは?
（2）グループワークの有効性
2. グループワークによる「安全運転研修」の進め方
（1）全体構成
（2）準備
（3）グループワークの標準的な進め方
（4）「危険予測と回避トレーニング」グループワークの標準的意見交換の進め方
（5）「ヒヤリ・ハット体験交換」グループワークの標準的意見交換の進め方

■付録2. 安全運転のお供に …… 付5
（1）「阪神高速　ドライブガイド」
（2）「運転管理シート・安全運転チェック項目」

付録のご利用方法

付録では、本教本を活用した交通安全研修において、“そのまま”使っていただける資料やツールを提供しています。

付録1では、「安全運転研修」の最も望ましい方法の一つであるグループワークについて、準備や進め方を具体的にお示ししています。グループワーク経験が少ない場合でも、標準的なグループワークの方法として、ぜひお取り組みください。

ここでは、グループワークのテーマとして、「危険予測と回避トレーニング」と「ヒヤリ・ハット体験交換」の2つのグループワークを紹介しています。

また、紹介するワークシートや記録シートは、そのままお使いいただけますので、案内に従ってダウンロードして、ご活用ください。

付録2は、安全運転のお供として、お手元にお持ちいただくためのツールです。

「阪神高速　ドライブガイド」は、携帯していただける安全運転パンフレットです。いざというときの緊急連絡方法や運転に役立つ情報を掲載しています。案内を参考にダウンロードし、折りたたんで、車の中やかばんに常備するなどして、日常的にご活用ください。

「運転管理シート・安全運転チェック項目は、企業や団体におけるドライバーの日常業務で簡単に安全運転管理を行うためのツールです。ドライバーの皆様が、出発前と業務終了時にチェックすることで、安全運転意識を高めることにつながりますので、ぜひご活用ください。

付録1. グループワークによる「安全運転研修」

1.　グループワークによる「安全運転研修」のすすめ

(1)　グループワークによる「安全運転研修」とは?

交通事故を防止するためには、車を的確に操作・コントロールできること、法に従った運転ができること、安全運転に関する知識を持つことなどが必要ですが、それだけでは必ずしも十分ではありません。

ドライバー各自が高速道路の安全走行について学習し、様々なことを知ることはとても大切であり、それによって、知らないで起こしてしまう事故を防ぐことができます。しかし、ドライバーの安全走行の能力を高め、個人が抱える問題点を改善していくためには、単に個人的に学習するだけではどうしても限界があるため、ここでは、より有効な学習方法としてグループワークによる方法を推奨します。

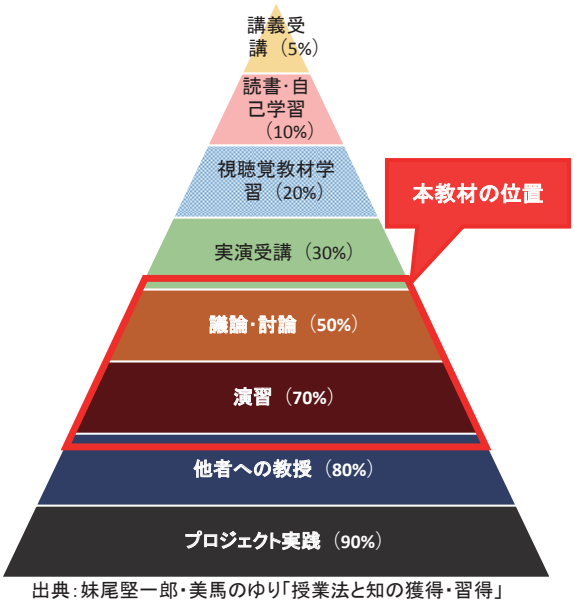
グループワークとは、小集団でグループを編成し、様々なテーマや目標を自主的・主体的・能動的に話合いで決めて実行していく活動を総称しています。講義や講習、会議といった一方的な教育は、知識や情報を伝えることは可能ですが、そこに本当の理解と心からの納得が無いと安全に対する考え方や価値観などの態度変容は困難です。安全に対する考え方や価値観を改めていくために、グループワークは非常に有効な手法です。ぜひ、一度はグループワークによる「安全運転研修」をお試しください。

次頁からは、代表的な安全運転研修である「危険予測と回避トレーニング」と「ヒヤリ・ハット体験交換」のグループワークの進め方について紹介します。

(2)　グループワークの有効性

本教材は、自己研修、集団研修、小グループによる研修等、様々な学習形態に対応しています。いずれの学習方法も有益ですが、ここでは小グループによる学習をお勧めします。

学習方法とその習得度の関係をみると、議論・討論や演習は単なる講義の受講や視聴覚教材による学習と比べると非常に習得度が高いことが知られています。さらに、対話を通して学習意欲を引き出し、自分一人だけでの学習では見えないことに気付くことが意識変容を促します。そのため、グループというチームのなかで学ぶことは、「個人の力の総和を超えたチームゆえの能力をつくり出し、個々のメンバーもほかでは不可能なほど急成長を遂げる注)」ことができます。



出典：妹尾堅一郎・美馬のゆり「授業法と知の獲得・習得」学びとコンピューティングハンドブック、2003をもとに作成。

ラーニング・ピラミッド

注)「最強組織の法則」ﾋﾟｰﾀｰ・M・ｾﾝｹﾞ、1995より

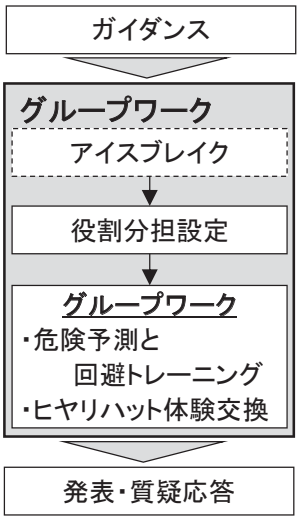
2. グループワークによる「安全運転研修」の進め方

(1) 全体構成

グループワークによる「安全運転研修」の標準的な構成は、右図に示すとおりです。

グループは、事業所や団体の所属部署ごとでも、研修会に参加された方々でその場でグループを構成していただいても結構です。グループ人数は、3人～8人程度が望ましいです。

グループワークのあと、できる限り各グループからの発表を行い、質疑応答の時間を持つようにしてください。



グループワークの全体構成

(2) 準備

グループワークに際しては、次のような準備や道具立てを行うことでより活発な議論と成果が期待されます。

- ・会場設営：グループの島を形成
- ・意見交換用ベースの紙：阪神高速道路網白図、or模造紙
- ・議論を書き留めるもの：ポストイット、メモ用紙など
- ・筆記用具：裏写りしないもの（プロツキーなど）
- ・記録用紙（標準的な様式をダウンロードすることができます）

危険予測と回避トレーニング	「危険予測と回避トレーニング」ワークシート、「同」記録用紙
ヒヤリ・ハット体験交換	「ヒヤリ・ハット」記入シート、阪神高速道路網白図

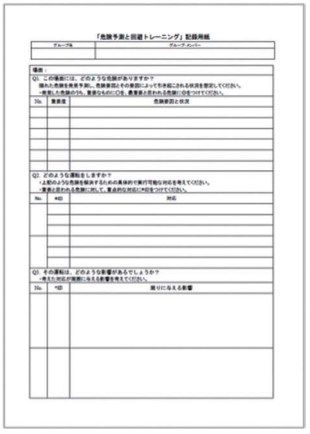
(3) グループワークの標準的な進め方

時間	内容	留意点
	受付/グループ分け	・あらかじめのグルーピングが望ましい。
5分	**ガイダンス**	・今日の予定とグループワークの進め方を説明。
3分	**グループ別アイスブレイク**	・最近のうれしかったこと、楽しかったこと、感動したことをお互いに伝える（30秒/人）。 仕事上よりも個人的なことが望ましい。
2分	**グループ別役割分担設定**	・進行役：みんなの意見をたくさん引き出す（×まとめ役） ・書記役：みんなの意見をなくさない（×結論を書く） ・発表役：全員のやり取りを的確に伝える（×発表だけ） ・タイムキーパー：時間管理
35分	**グループ別意見交換** ・危険予測と回避トレーニング ・ヒヤリ・ハット体験交換 ※各テーマの標準的な意見交換方法とプロセスは後述	・ワークシートなどを活用して、一人ひとりが考え、意見を述べ、対話を通して問題の解決をめざします。 ※話し合いのルール →議論は避ける →傾聴する：相手の意見を良く聞く →伝わらないのは伝える側に問題がある →キャッチボールをする →一般論、評論にならない
15分	**発表・質疑応答（全体）**	・グループでの意見交換を発表しあう（3分/グループ）。 →正解発表ではなく、参加者全員のやり取りを的確に発表 →発表に代えて（加えて）各人の意思表明

注）ここでは、標準的な1時間のグループワークをお示ししています。1時間30分程度の時間がとれる場合は、意見交換の時間を少し長めにとることが望ましいです。発表・質疑応答の時間を長めにとっても結構ですが、発表時間は短く簡潔にしましょう。

(4)「危険予測と回避トレーニング」グループワークの標準的意見交換の進め方

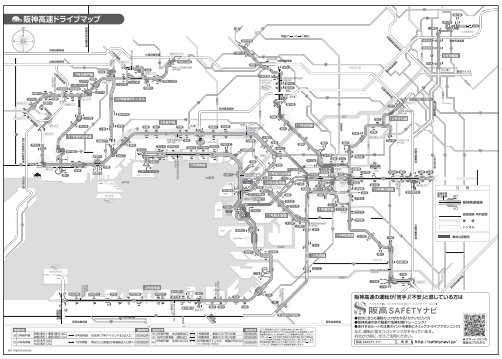
「危険予測と回避トレーニング」教材は、実際に危険に直面したときに、前述した危険予測と回避をどのように認識し判断して、実行に移すことができるようにするトレーニング方法です。「危険予測と回避トレーニング」ワークシートを活用して、各グループで活発な意見交換をしてください。

時間	内容	留意点
3分	**テーマの抽出設定**	・用意されている10の問題の中から、今日取り組む問題を抽出します。一人ひとりがこれはと思う問題に取り組んでも、皆で1つか2つの問題に取り組んでも構いません。
5分	**ワークシートへの記入**	・各自が、「危険予測と回避トレーニング」ワークシートを用いて、それぞれの問について考え、考えを記入します。 ・できるだけ多くの考えを書くようにしましょう。 1.問題イラストを見て、危険を積極的に発見してください。 2.危険に対して、どう対処すればよいかといった対処行動を考える。 3.対処行動が周辺に与える影響を考えます。良い影響だけでなく、悪い影響も重要です。
7分	**記入ワークシートの発表**	・記入したワークシートをもとに、各自の考えを発表します。 ・発表は1分程度の短時間が望ましいです。
15分	**意見交換**	・発表した考えに対して意見交換をします。質問と応答、賛同とコメントなど、何でも良いのです。 ・基本的に、全員が発言するようにしましょう。 ・記録係は、みなの意見を記録用紙に書き留めましょう。 ※記録用紙は、拡大コピーを用意するかパソコンで共有することが望ましいです。これは、発表用にも活用します。 
5分	**まとめと課題整理**	・意見交換の最後に、皆の意見を整理し、課題を抽出します。 ・結論を導く必要はありません。対立意見や課題が重要です。
5分	**発表準備**	・グループでの議論を発表するための準備をします。 ・記録係が記入した記録用紙をもとに、意見を整理します。

※危険予測と回避トレーニング「ワークシート」と「記録用紙」は、表中のサンプル図をクリックいただくか、「運転お役立ちガイド」(http://changedrive.jp/)からダウンロードできます。

(5)「ヒヤリ・ハット体験交換」グループワークの標準的意見交換の進め方

「ヒヤリ・ハット体験交換」教材は、“ヒヤリ!”、“ハット!”したなど、過去に危険などを感じた経験を皆で出し合って意見交換することで、危険とその原因を確認し、回避する方法を考えて、実行に移すことができるようにするトレーニング方法です。「ヒヤリ・ハット」記入シートと「阪神高速道路網白図」を活用して、各グループで活発な意見交換をしてください。

時間	内容	留意点
10分	**「ヒヤリ・ハット」記入シートへの記入**	・一人ひとりが経験した「ヒヤリ・ハット」を、記入シートに記入します。 ・記入した「ヒヤリ・ハット」の場所を、「阪神高速道路網白図」に番号を記入します。 ※記入シートは多めに用意して、できるだけ多くのヒヤリ・ハット体験を記入しましょう。多ければ多いほど良いです。また、地図に番号を記入する際には、他の人が記入していても、重ねて記入しましょう。その番号が多い場所は、ヒヤリ・ハットを経験した人が多い重要な場所かもしれません。
7分	**ヒヤリ・ハット体験の発表**	・記入したワークシートをもとに、各自の考えを発表します。背景や環境なども重要です。なぜ?どうすれば良かったかなどの考えをあわせて発表してください。 ・発表は1分程度の短時間が望ましいです。
15分	**意見交換**	・発表した考えに対して意見交換をします。質問と応答、賛同とコメントなど、何でも良いのです。 ・基本的に、全員が発言するようにしましょう。 ・記録係は、皆の意見を「阪神高速道路網白図」に書きとどめましょう。  ※「阪神高速道路網白図」は、拡大コピーを用意することが望ましいです。これは、発表用にも活用します。
5分	**まとめと課題整理**	・意見交換の最後に、皆の意見を整理し、課題を抽出します。 ・結論を導く必要はありません。対立意見や課題が重要です。
5分	**発表準備**	・グループでの議論を発表するための準備をします。 ・記録係が記入した記録用紙をもとに、意見を整理します。

※「ヒヤリ・ハット記入シート」と「阪神高速道路網白図」は、表中のサンプル図をクリックいただくか、「運転お役立ちガイド」(http://changedrive.jp/)からダウンロードできます。